

# 原発と教育

中二 「ウミ」イキ

## 0、はじめに

お久しぶりです。「ウミ」イキです。今年は東日本大震災を振り返るというテーマから、原発事故の報道による変化について研究いたします。原発事故による、風評被害が取り上げられています、それは教育にも波紋を及んでいます。それで、教育にどのように影響が出るかを考えたいというところなんです。

今回は記録されている報道をもとに、影響について考えていきます。自分の情報をまとめる技術が低いのか、挙げている情報量が乏しいのはご容赦ください。

※放射線の安全基準は一般公衆では一年間で一ミリシーベルトとします。

## 1、本章

[6/15 正午の JNN ニュース]

都内での放射線量の測定は、新宿区内1箇所から、100箇所に拡大。

原発事故発生からおおよそ三カ月経った日の報道です。

ここから考えられることとすれば、放射線量が周辺よりも異常に高い、俗に言う「ホットスポット」の存在が明らかになったこと。

この、ホットスポットは非常に狭い範囲に出できます。数百 m しか離れていない場所において、非常に数値が高いような場合があります。

これらの影響により、一部自治体では一部の学校の一部施設の使用を停止するなど、影響が出ております。

[埼玉県放射性物質などの検査]

東京都の隣、埼玉県でも測定を行っております。

子供の健康への不安をお持ちの方の要望があつてのことと推測されます。

県は県内を六キロメートル四方の90のメッシュに分け、幼稚園、保育園、小・中学校及び県立学校、合わせて116か所で、二週間に一度、5cm・50cm・100cm の高さで空間放射線量を測定しています。

測定結果としては、幸房小学校(三郷市)に24時間365日(つまりは一年中)いると仮定したとき、一般公衆の線量限度の年間1ミリシーベルトを超える可能性がある値となったとのこと。実際の学校生活においては、校庭での活動時間は想定よりかなり短い時間であり、ゆえに現状において健康には影響ないとされます。

なお、潮止中学校(八潮市)は8月24日(Wed.)、小瀬中学校(八潮市)は8月26日(Fri.)にそれぞれ校庭の表土を1～2cm削っていることから、測定値が低下しているものと推測されます。

県の今後の対応として、八潮市、古川市、県内で特に高い放射線が測定された幸房小学校のある三郷市については、市と協議の上、今後も毎週、詳細測定を実施するようです。

(埼玉県 HP より引用)

上の通り、三郷市の一部の小学校では、年中いると仮定したとき、線量制限を越すという結果が出ました。

ただし、校庭での活動時間(おもに授業など)は非常に短いので、児童に健康への影響はないとのこと。

#### [プールの水]

福島県内にて学校の屋外プールの水に放射性物質がたまった件があり、排水はできないため、専門機関の協力により除染を行ったとのこと。

ちなみに、JAEA は放射性物質を取り除く、除染マニュアルなるものを書いており、公開がされております。

JAEA…日本原子力協会の略。

## 2、最後に

最後にあげておきたいものがあります。小児科医の浦島氏のインタビューです。一部の文を、引用させていただきます。

「いろいろな項目を調べたのですが、避難した妊婦から生まれた子どもは、言葉の障害、情緒障害、社会適応性の障害を持つ子が、避難していない妊婦から産まれた子どもに比べて多く、知能指数も低いという結果になりました。」

勿論、放射性物質の被曝による病も、子供たちにとっては脅威です。

しかし、保護者の「不安」、あるいは避難先の環境も子供には大きな影響を与えるものなので、

### 3、あとがき

如何だったでしょうか。大変ページ数が少なくなりましたが、ご容赦ください。

### 4、参考文献

読売 Dr.[<http://www.yomidr.yomiuri.co.jp>]

JAEA 公式 HP[<http://www.jaea.go.jp/>]

埼玉県教育委員会 放射性物質の検出結果

[<http://www.pref.saitama.lg.jp/page/tohokukanto.html#genpatsu>]

東奥日報[<http://www.toonippo.co.jp>]

### 5、地震は、何を变えたのか？

この地震は、「節電」の意義を変えたと思います。

節電は、何のためにあるのか？

少し前では正直なところ、自分には関係ないと思い、そう節電志向がなかった人も一部いるかと思われまふ。(現に、自分がその一人です。)

そして、半年前起こったのが未曾有の大震災。

震災直後の TV では公共放送からローカル局まで震災の報道が絶えることなく流れておりました。

3/14 には、原発の直方体の建屋が気体によって爆発する映像。

日本の電力を賄うにおいては、欠かせないものとなっており、かつ数の少ない、原発。その数の少ないものをひとつ、失ったのです。

節電の意義が、ふと目の前に感じられました。

電力のありがたみも、このときやっと理解できたような気もします。

最後に。

限りのあるものを、如何に無限に近付けるかではなく、食い尽さないように努めよう。有限のものに、無限はないのだから。